

非常用トイレ

- 目的** 大きな災害が発生し、広尾防災公園が一時避難場所として利用された際に、ある意味最も重宝するのがこの非常用トイレです。平成7年の阪神淡路大震災の際も、トイレを我慢することで体調を崩す避難者も多く、生理現象を快適に用足すことは非常に重要なことです。
- 方式** 広尾防災公園は一般的な貯留槽方式ではなく、下水道直結方式と言って、公園内の下水道管の一部を太くし（直径50～70cm）、その上に便槽を取り付けます。災害時に下水道本管が破断しなければ、そのまま流せ、万が一が一本管が破断した場合は、太い管内に貯留することができます。
- 容量** 避難想定人口約13,000人が3日間分の容量を確保（60立方メートル）
便槽は和式用60穴、洋式用8穴の計68穴を設置します。



管の上に便槽となる小型マンホールを設置します

直径70cmの極太の管を地下に埋設しています



災害時には、小型マンホールを開けて専用テントを張って使います